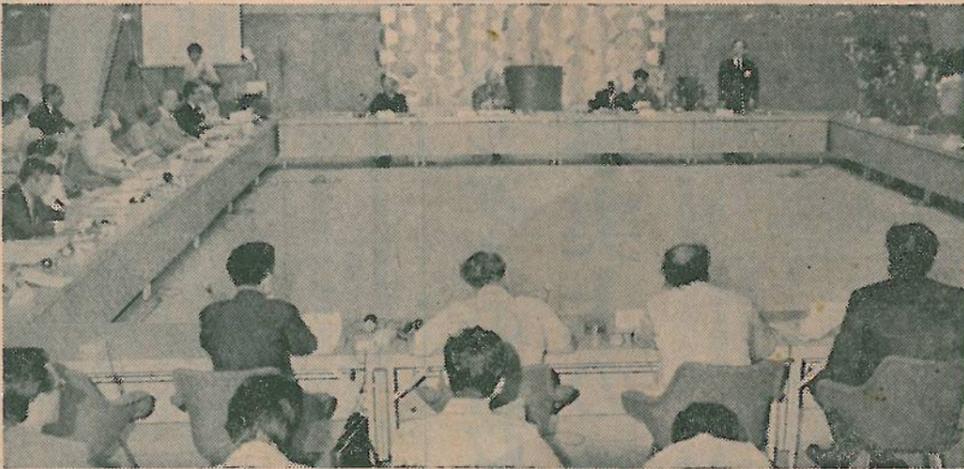


# パグウォッシュ会議開く

## 軍なき安全保障へ

湯川博士 あいさつ 世界連邦めざそう

1975.8.28  
朝日 97p



人類(どういふ)の生物の一員として国家や信条のむくを越え、完全核軍縮への道を模索する科学者の国際会議、第二十五回パグウォッシュ・シンポジウムが二十八日朝、京都市左京区宝池の国立京都国際会館で開幕した。全面核戦争による人類の滅亡の危機が高まる中で、十八年前にカナダのパグウォッシュ村で誕生したこの会議だが、わけても広島、長崎への原爆投下、米水爆実験による第五福龍丸の「死の灰」の被ばくと、世界に例のない核実験をした日本での開催だけに、内外で成果が期待されている。

(右)面に関係記事

午前九時半、会館の中では比較的にコンパクトなルームDで開会式が始まった。これまで数々のマンモス学会やシンポジウムが開かれてきた会館だが、楽譜演奏などのアトラクションもなく、著名人ぞろいの参加者三十六人というこのシンポジウムにはかえってさざむじみ。

前立腺(せき)肥大症で五月月に入院、一回の手術、闘病生活でやれぬ味の湯川秀樹京大名誉教授が組織委員として、車いすで入場。まず事務局長の豊田利幸京大教授が湯川氏の入院、手術のいきさつを紹介、湯川氏は「核抑止という考え方が核軍縮をさまたげている最大の障害である。この考えは超大国の核の拡散を無限に招いている。また核軍備をする国も増えている。私のビジョンとしては、人類の全面完全軍縮と究極的にはすべての国が軍備がなくても安全を保障される世界的機構の確立が必要だ」とうことだ。この点に関して、私は

ラッセル・アインシュタイン博士のいった世界連邦の考え方に全く賛同するものだ。二十年前のラッセル・アインシュタイン宣言の精神にかえることが必要だ。核兵器は人類共通の敵であり、これを地球上からなくすのがわれわれの最終目的である。この会議で具体的な提案がなされることを切望します」

パグウォッシュ会議の開会式  
(28日午前9時、京都市左京区、国立京都国際会館)

セル・アインシュタイン宣言の精神にかえることが必要だ。核兵器は人類共通の敵であり、これを地球上からなくすのがわれわれの最終目的である。この会議で具体的な提案がなされることを切望します」

との趣旨の開会のあいさつをした。

このあと、アインシュタイン宣言の最初の署名者として湯川氏とともに世界でわずか二人の生き残りとなったロートブラット・ロンドン大教授があいさつ。豊田利幸事務局長が経過報告をしたあと閉会、シンポジウムに移った。

今回は「完全核軍縮への新しい構想——科学者および技術者の社会的機能」をメインテーマに九月一日までの会期中に核拡散、核不使用条約、完全核軍縮へのステップなど重要な問題が連日、約六時間程度話し合われ、最終日にコミニケにまとめられる。

c092-17-029